

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】

生徒が「できる・わかる・のびる」を実感する学校。

「確かな学力」と「自己有用感」に裏付けされた「自尊感情」を身につけ、社会に貢献できる人材を育成する学校。

【生徒に育みたい力】

①自分自身を肯定的に捉える力 ②他者を尊重し豊かな人間関係をつくる力 ③社会的・経済的・精神的に自立し、社会に貢献する力

2 中期的目標

1 確かな学力を育成する

(1) 生徒の学ぶ意欲を高める「わかる授業」「面白い授業」を実践する。

ア モジュール授業や入門科目により、基礎・基本的事項の確実な定着を図る。

※基礎学力の定着を把握し、指導の改善を図るため、基礎学力診断テストを実施する。

イ 1人1台端末の導入に向けて、ICTを活用した取組みを推進し、すべての教科で「わかる授業」「面白い授業」を実践する。また、研究授業や研修などを行い、生徒の思考力、判断力、表現力を高める授業ができたか検証し、学校全体で授業力の向上を図る。

(2) 選択科目やエンパワメントタイムの充実と新学習指導要領に合致した教育課程を構築する。

(3) 進学特別講習や補習を行うなど、生徒の進路実現や学習理解の促進を達成するための学習支援を推進する。

※学校教育自己診断における「生徒の授業に関する肯定的意見」の割合を令和5年度には75%以上とする。

(H30 62%、R1 64%、R2 69%)

2 進路を実現するため、系統的なキャリア教育を推進する

(1) 「キャリア教育ロードマップ」による計画的なキャリア教育を推進し、「総合的な探究の時間」「産業社会と人間」「人生設計学」等のエンパワメントタイムなどにおいて、系統的な学習を実施する。

(2) 英語や情報に関する資格の取得を促進する。

(3) キャリア教育コーディネーターとの連携を深め、説明会や授業など様々な機会において、キャリアプランニングに関する取組みを行う。

※進路未決定率ゼロを達成するために、学校教育自己診断における「生徒のキャリア教育に関する肯定的意見」の割合を令和5年度において、75%以上を維持する。

(H30 70%、R1 73%、R2 76%)

3 生徒一人ひとりに寄り添い、丁寧な生徒指導を推進する

(1) 進路実現に必要な基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。

ア 遅刻指導・服装指導・頭髪指導を丁寧に実施し、基本的生活習慣を確立させる。

イ すすんで挨拶する態度を身につけさせる。

ウ 交通マナー向上の取組みを強化する。

(2) 生徒理解と中途退学防止の取組みを組織的に発展させる。

ア 様々な機会を通して生徒の話を聴き、生徒の複雑な生活背景を把握したうえで指導を行う。

イ 課題を抱える生徒の指導、支援の方針を担任会、保健・相談部会、教育相談連絡会、支援委員会などで組織的に検討し、個別の指導計画の作成をすすめ、支援の充実を図る。

ウ SC、SSWなど専門人材の有機的活用と関連機関との連携を進める。

(3) 家庭、地域、中学校との連携を強化し、開かれた学校作りを進める。

ア 地域清掃活動及び地域の高齢者施設、幼稚園、支援学校等との交流活動の充実を図る。

イ 文化祭・体育祭などの学校行事における保護者の参加を促し、PTA活動を活性化する。

ウ 公開授業や出前授業を積極的に行い、エンパワメントスクールとしての新たな取組みを地域や中学生、保護者等へアピールする。

※中途退学率・生徒指導案件数を前年度数値以下とする。

4 自尊感情、自己有用感を育む教育を推進する

(1) 人権・国際理解・道徳の各教育の取組みを有機的に推進し、豊かな人間関係をつくる力を育成する。

ア アサーショントレーニング・アンガーマネジメントなどによりコミュニケーション力を育成する。

イ ユネスコスクールとして、SDGsの視点を踏まえた国際理解教育を推進する。

ウ 「道徳教育推進教師」を中心に教科を横断した道徳教育の展開に取り組む。

エ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見、解決に取り組む。

オ 新型コロナウイルス感染症については、学びの保障とあわせて、偏見や差別が生じないように指導する。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて、集団や学校への帰属意識や自己有用感を高める。

ア 行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる力を育成する。

イ 部活動の充実を図り、加入率を高める。

ウ 多様性を包括する集団作りを通じて、公共心を育成する。

※部活動加入率を令和5年度には40%以上とする。(H30 24.7%、R1 32.8%、R2 38.0%)

5 教職員の資質向上と校務の効率化を推進する

(1) ウェブ研修コンテンツの活用や全教員参加の全校一斉研究授業を実施する。

(2) OJTを中心とした研修を計画的・組織的に実施し、初任者等経験年数の少ない教員の資質向上を図る。

(3) フォロアーシップを高め、ミドルリーダーの育成に力を入れる。

(4) 教職員のICT活用能力を高め、会議や校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減する。

(5) 「部活動の在り方に関する方針」に則った効率的、効果的な部活動を実施する。

※研究授業・公開授業の全員参加をめざす。

※令和5年度までに、教員の超過勤務月平均時間を30時間以下とし、維持していく。

(H30 31.9時間、R1 28.7時間、R2 21.9時間)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>○「中期的目標1 確かな学力を育成する」について、以下の項目を検証した。</p> <p>「授業はわかりやすい」 生徒 77% (昨年度比8p増) 保護者 67% (昨年度比7p増)</p> <p>「教え方に工夫をしている先生が多い」 生徒 75% (昨年度比2p増) 保護者 60% (昨年度比2p減)</p> <p>教員の意識については「生徒のレベルに応じた分かりやすい授業にする努力をしている」が肯定的意見80% (昨年度比1p減)「生徒の実態をふまえ、教科として指導方法や学習形態の工夫・改善を行っている」が同85% (昨年度比4p増)であった。</p> <p>教員の授業力向上に関しては着実に成果が出ている。また「教え方に工夫をしている先生が多い」の保護者の肯定的意見が昨年度よりも低くなっているが、今年度保護者向けの授業参観がコロナ感染症のため実施できなかったことが影響していると考えられる。引き続き生徒の学習状況の実態把握を行いながら生徒のニーズに応えられる授業づくりを推進したい。</p> <p>【進路指導等】</p> <p>○「中期的目標2 進路を実現するため、系統的なキャリア教育を推進する」の進路指導については以下の項目を検証した。</p> <p>「選択教科が工夫されていて自分の学びたいことを学べる」 生徒 75% (昨年度比1p減) 保護者 89% (昨年度比1p増)</p> <p>「将来の進路や生き方について考える機会がある」 生徒 79% (昨年度比2p減)</p> <p>教員の意識は「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい情報提供を行っている」の項目が76% (昨年度比11p増)で大きく増加した。また保護者も昨年度に引き続き高い評価を示している。生徒のニーズに合うキャリア教育の取組みをさらに進めていきたい。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>○「中期的目標3・4 生徒一人ひとりに寄り添い、丁寧な生徒指導を推進する。自尊感情、自己有用感を育む教育を推進する。」については以下の項目を検証した。</p> <p>「エンパワメントスクールに入学してよかった」 生徒 82% (昨年度比1p増) 保護者 89% (昨年度比4p減)</p> <p>「学校に行くのが楽しい」 生徒 66% (昨年度比3p減) 保護者 70% (昨年度比5p減)</p> <p>「先生は、いじめなど、私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」 生徒 73% (前年度比2p減) 保護者 67% (前年度比16p減)</p> <p>「担任の先生以外にも保健室・相談室など、気軽に相談することができる先生がいる」 生徒 62% (前年度比2p減) 保護者 49% (前年度比14p減)</p> <p>「国際理解・国際交流について学習する機会がある」 生徒 65% (前年度比8p増) 保護者 47% (前年度比2p減)</p> <p>「部活動に積極的に参加している」 生徒 46% (前年度比8p減) 保護者 30% (前年度比6p減)</p> <p>「命の大切さやルールについて学ぶ機会がある」 生徒 79% (前年度比1p増) 保護者 73% (前年度比増減なし)</p> <p>多くの項目で昨年度を下回る結果となった。保護者への情報発信や学校行事、クラブ活動や生徒会活動等の様々な取組みが、コロナ感染症により十分に行うことができなかったことが影響していると考えられる。</p> <p>また、いじめ対応や教育相談についての項目で、保護者の肯定的意見の割合が昨年度に比べ大きく減少した。教員の意識では教育相談につい</p>	<p>【第1回 6月5日開催】書面にて開催</p> <p>○R3年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の目標も中期的目標の実現に向けて、しっかり計画されている印象を受けた。 ・コロナ過の難しい状況ではあるが、目標としている数値に近づいてきている。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回は対面式の協議会を切に望む。昨年度は3回中1回しかなかった。ICTの活用を中期的目標に掲げるのであれば、この協議会もオンラインでの実施を模索すべきではないか。 <p>【第2回 10月30日開催】</p> <p>○「わかる授業」の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組みについて紹介してほしい。 <p>○進路実現に必要な基本的な生活習慣の確立について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・欠席については、繰り返し遅刻や欠席をする生徒の数も考慮した算出方法を工夫すればより詳細な分析ができるのではないか。 <p>○キャリア教育の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学決定率も重要だが離職率や進学先の退学率についても数字を追っていただきたい。 <p>○学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの回収率を向上させる工夫が必要 <p>○地域連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣中学校や町内会との連携をもっと深める必要があるのではないか。同窓会としても協力できる体制があり、電気関係の社長や警察・消防の署長など、それぞれの分野で活躍するOBによる就職面や人権面での講演も可能。 <p>【第3回 3月5日開催】</p> <p>○学校教育自己診断から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「プライバシー、守秘義務」の項目について、否定的な意見があるわけではないので気にする必要はないのではないか ・「服務規律への自覚」の項目について、肯定的な意見が低いのでぜひ頑張してほしい。 <p>○令和3年度学校評価(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活性化について、中学校の部活動の現状を教員の働き方も含め紹介していただいた。 ・先生方のベクトルが違うと感じる。例えば外部人材を活用し先生方へのキャリアコンサルティングなど行うなど、ベクトルを統一することから始めてはどうか。 ・否定的な意見を持つ教職員をどのように生かすのが管理職としての力量。ただ簡単に成果が出るものではないので継続して取り組んでほしい。 <p>○令和4年度学校経営計画(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動も含め中学校との連携を強化すべき ・大学入試そのものが大きく変わっていく中で高校としての取組みも頑張してほしい。 ・モジュール授業などの「学び直し」の授業でデジタルドリルを活用してみてもどうか。 <p>○学校評価、学校経営計画について</p> <p>令和3年度学校評価(案)及び令和4年度学校経営計画(案)について検討、承認された。</p>

<p>ては89%で昨年度より11%増加し、いじめ対応では昨年度より11%減少している。いじめ対応や教育相談については分析も含め検討が必要である。</p> <p>【その他】</p> <p>○今年度より教員向けの学校教育自己診断に10項目の学校運営に関する項目を追加した。これにより本校の学校運営の実態把握に努めるとともに改善や見直しを図ることにより良い学校運営をめざしたい。</p>	
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 確かな学力を育成する	(1) 「わかる授業」「面白い授業」を実施する。	(1) ア 基礎学力診断テストを実施し、生徒の学力の把握、授業の改善を図る。 イ 授業アンケートの1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づける。1回めのアンケート結果をもとに教科毎の公開授業と研究協議を実施。2回めのアンケート結果をもとに成果と課題を確認。3学期の職員会議で全体共有する。	(1) ・授業アンケート、学校教育自己診断の結果、授業に対する肯定的な回答がそれぞれ、3.38、70%以上となったか。 [3.38、69%]	(1) ・授業アンケート、学校教育自己診断(生徒)の授業に対する肯定的な回答はそれぞれ、3.44、77%となった。授業力向上のための取組みの成果が着実に表れている。(◎)
	(2) 選択科目やエンパワメントタイムの充実と新学習指導要領に合致した教育課程を構築する。	(2) ・丁寧なガイダンスを行い、進路実現に必要な科目を選択できるよう指導する。 ・生徒の希望する選択科目が開講できるよう時間を調整する。 ・新学習指導要領が求める力を育成する授業を実施する。	(2) ・生徒が進路を実現するために必要な科目選択ができるよう、ガイダンスを1回以上開催したか。 ・学校教育自己診断における「選択科目に関する肯定的な意見」が75%以上となったか。[76%] ・アクティブラーニングが実施できているか。授業アンケートにおける「授業展開に対する肯定的な回答」が3.31以上を維持できたか。[3.31]	(2) ・5月に科目選択説明会を実施。保護者に対しても数回にわたり懇談を通して丁寧な説明を行い10月の本調査につなげた(○) ・学校教育自己診断(生徒)「選択科目に関する肯定的な意見」は75%であった。(○) ・授業アンケート「授業展開に対する肯定的な回答」は3.38であった。(○)
	(3) 進学特別講習や補習を実施する。	(3) ・進学意欲の高い生徒に対して、1年次より長期休業前等に進学特別講習を実施する。 ・学習理解の促進を図る補習の実施や、学習習慣の確立に向けて、放課後に校内で学習する生徒を増やす。	(3) ・進学特別講習の参加人数、実施回数が前年度を上回ったか。 [24時間のべ169人] ・キャリアガイダンスルームの放課後利用が50人以上となったか。[50人]	(3) ・今年度の進学特別講習は3学年で55時間、参加人数もものべ140人であった。昨年度に比べ参加人数こそ減ったものの時間数は大幅に増加しており進学に対して意欲的な生徒が熱心に取り組んでいる。(○) ・キャリアガイダンスルームの放課後利用は昨年度と同じ50人であった。進学や就職対策の学習をする3年生を中心に利用している(○)
2 進路を実現するため系統的なキャリア教育を推進する	(1) キャリア教育の視点から、系統的な学習を推進する。	(1) 育むべき力を確認し、「総合的な探究の時間」「産業社会と人間」「人生設計学」を含め、「キャリア教育ロードマップ」の作成により系統的な学習を推進する。	(1) ・学校教育自己診断における「生徒のキャリア教育に関する肯定的意見」が80%以上を維持できたか。[81%] ・ロードマップ作成のための校内研修を4回以上実施することができたか。	(1) ・学校教育自己診断(生徒)「キャリア教育に関する肯定的な意見」は79%で80%を維持することができなかった。(△) ・ロードマップ作成のための校内研修は2回の実施にとどまった。当初の計画では4回の研修を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響やオンライン授業への対応、新学習指導要領実施に向けての準備などにより計画通りにいかなかった。次年度に向け計画の見直しを図りたい。(△)
	(2) 英語や情報に関する資格取得を促し、進路実現につなげる。	(2) 英語や情報に関する資格取得を促し、進路実現につなげる。	(2) ・英語検定受験者40人以上となったか。[30人] ・情報試験受験者120人以上	(2) ・英語検定受験者は新型コロナウイルス感染症の影響から第1回めの検定は中止となり、第2回めの検定は16人となった。(一) ・情報検定は今年度から1年生「社会と情報」の生

府立淀川清流高等学校

る	(3) キャリアプランニングできる力を身につけさせる。	(3) キャリア教育コーディネーターと連携し、説明会や授業など様々な機会を通して、キャリアプランニングする力を身につける取組みを行う。	上となったか。[76人] (3) ・進路決定率が95%以上となったか。[97%]	徒全員に検定試験を受験させたこともあり受験者数は240人となった。(○) 次年度以降、合格率を指標としたい。 (3) ・進路決定率は96.3% (○)
---	--------------------------------	--	--	---

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 生徒一人ひとりに寄り添い、丁寧な生徒指導を推進する</p>	<p>(1) 進路実現に必要な基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。</p>	<p>(1) ア 遅刻指導、服装指導、頭髪指導など基本的な生活習慣の確立に必要な指導を行い、生徒自身が自らの進路を切り開くために必要な力をしっかり身につけさせる。</p> <p>イ 朝の挨拶運動や日々の学校生活の中で教員側から積極的に挨拶をすることを通して、自然に挨拶をする雰囲気醸成する。</p> <p>ウ 学警連携も含め、通学マナーの指導及び交通安全指導をさらに強める。特に、生徒が被害者、加害者にならないように自転車のマナー指導を強化する。</p>	<p>(1) ア ・遅刻総数が 6,000 件以下、欠席総数が 8,000 件以下となったか。 [遅刻総数 6,589 件、欠席総数 8,267 件] ・繰り返し頭髪指導を受ける生徒の数が 20 人以下を維持できたか。[17 人]</p> <p>イ 学校教育自己診断において、挨拶に対する生徒の肯定的な回答が 75%以上となったか。[63%]</p> <p>ウ 近隣からの指摘の件数や通学マナーでの指導件数が 10 件以下となったか。[15 件]</p>	<p>(1) ア ・遅刻総数は 4,810 件と大幅に減少したが欠席総数は 8,330 件で昨年度並みとなった (○) 欠席総数の減少が今後の課題である。 ・繰り返し頭髪指導を受けた生徒は 12 人であった。丁寧で粘り強い指導が成果となって表れている。(○)</p> <p>イ 学校教育自己診断(生徒)の挨拶に対する肯定的な回答は 66%で昨年並みに留まった。(△) 次年度、生徒会も巻き込みながら新たな取組みを行いたい。</p> <p>ウ 近隣からの指摘や通学マナーでの指導件数は 30 件であった。次年度、学警連携も含め新たな取組みを検討したい。(△)</p>
	<p>(2) 生徒理解と中途退学防止の取組みを組織的に発展させる。</p>	<p>(2) ア 教室はもとより、教育相談室や保健室などでも生徒へのきめ細かな対応が行われるよう教育相談体制を充実させる。</p> <p>イ 精神科医師や大学教員などの専門家を招いての事例検討会などを実施し、配慮を要する生徒等への支援や指導に向けての教職員の指導力の向上に取り組む。</p> <p>ウ 担任団、管理職、SSWやSCなどの専門人材、家庭、外部機関との連携をさら深め、きめ細かな指導を行う。</p>	<p>(2) ア・イ・ウ ・教育相談連絡会、支援委員会など各組織において、充実した生徒支援の論議ができたか。 ・学校教育自己診断における「教育相談」に対する肯定的な回答が生徒・教員それぞれ 75%、95%以上となったか。[64%、78%]</p>	<p>(2) ア・イ・ウ ・校内での情報共有のやり方については検討すべきであるが、中学校との情報共有や行政機関との連携については、丁寧に行われており成果が出ている。 ・学校教育自己診断における「教育相談」に対する肯定的な回答は生徒 62% (△)、教員 89% (△)であった。教員の意識は昨年度より改善が見られたものの、目標の数値には届かなかった。</p>
	<p>(3) 家庭、地域、中学校との連携強化と開かれた学校づくりを進める。</p>	<p>(3) ア 生徒、教職員、PTAが協力して地域の清掃活動をさらに活性化させる。部活動を通じて高齢者施設や幼稚園、支援学校等との交流を促進する。</p> <p>イ 体育祭、文化祭などにおける保護者参加を促し、PTA活動を活性化する。</p> <p>ウ オープンスクールはもとより、公開授業、出前授業を積極的に行い、エンパワメントスクールとしての本校の新たな取組みを地域や中学生、保護者等にアピールする。</p>	<p>(3) ア ・地域清掃の参加人数が 1 回あたり 80 人を上回ったか。 [83 人] ・部活動の地域交流の取組み回数が前年度を上回ったか。[和太鼓部 0 回、フォークソング部 1 回、文化健康部 0 回、計 1 回]</p> <p>イ 学校教育自己診断における「保護者交流」に関する肯定的な回答が 60%以上となったか。[48%]</p> <p>ウ ・オープンスクールの総参加人数が 400 人以上となったか。[279 人] ・学校教育自己診断における「教育情報の発信に力を入れているに関する肯定的な回答」が 90%以上となったか。[79%]</p>	<p>(3) ア ・新型コロナウイルス感染症の影響から、今年度予定していた地域清掃は実施できなかった。(一)</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、部活動の地域交流の取組み回数は、フォークソング部の思育支援学校との交流 1 回のみであった。(一)</p> <p>イ 学校教育自己診断(保護者)の「保護者交流」に関する肯定的な回答は 46%で昨年並みの数値に留まり目標には達しなかった。新型コロナウイルス感染症により、保護者の参加そのものを制限しなければならない状況が大きく影響している。(一)</p> <p>ウ ・第 4 回めのオープンスクールこそ新型コロナウイルス感染症の影響により中止したが総参加人数は 430 人と目標を達成できた。特に 3 回めは過去数年間で最も多い参加人数となった。(○) ・学校教育自己診断(保護者)における「教育情報の発信に力を入れているに関する肯定的な回答」は 80%と昨年度並みに留まった。ホームページや校長ブログなどあらゆる方法で情報発信に力を入れたい。(△)</p>

<p style="text-align: center;">4 自尊感情、自己有用感を育む教育を推進する</p>	<p>(1) 人権・国際理解・道徳の各教育の取組みを有機的に推進し、豊かな人間関係をつくる力を育成する。</p> <p>(2) 特別活動や生徒会活動を通じて、集団や学校への帰属意識や自己有用感を高める。</p>	<p>(1) ア ・同和問題、障がい者理解はもとより、LGBTや情報リテラシーなど、新たな人権教育を実施する。 ・アサーショントレーニング、アンガーマネジメントなどのコミュニケーション力育成の取組みを行う。</p> <p>イ ユネスコスクールとして、SDGsの視点を踏まえ、JICA講演、留学生交流など国際理解教育を実施する。</p> <p>ウ 「道徳教育推進教師」を中心に教科を横断した道徳教育の展開を図る。</p> <p>エ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見、解決に取り組む。</p> <p>オ 新型コロナウイルス感染症については、生徒の安心・安全の確保、学びの保障に努めるとともに、偏見や差別が生じないよう指導する。</p> <p>(2) ア・ウ ・生徒の自立心や主体的な行動力、集団への帰属意識等をより高めるために、生徒がより自主的に活動できる取組を増やすなど、体育祭、文化祭等の学校行事のさらなる充実を図る。</p> <p>イ・ウ ・新入生歓迎会、部活動紹介、体験入部、部活動入部キャンペーン、部活動の発表機会をさらに充実させたり、4月に入部しなかった生徒が入部しやすい機会を設けたりするとともに、部活動を行うことのメリットを伝える機会を新たに設ける。また、あらゆる機会を捉えて部活動を顕彰する。 ・アンケート等を実施し、クラブ活動に対する生徒のニーズを把握する。</p>	<p>(1) ア・イ・ウ・エ・オ ・学校教育自己診断における「人権教育・国際理解教育に関する肯定的意見」がそれぞれ75%、60%以上となったか。 [77%、57%] ・生徒指導案件における「暴力／ネット／人間関係のトラブルに関する事案」が前年度を下回ったか。 [22件]</p> <p>(2) ア・ウ ・学校教育自己診断における「学校生活満足度」が80%以上を維持できたか。[81%] ・次年度以降の体育祭、文化祭の日程見直しなど、学校行事について更なる工夫改善を行い、生徒が安心安全に行事に参加できるようになったか。</p> <p>イ・ウ ・部活動加入率が40%以上となったか。[38.0%] ・部活動加入増に向け、クラブ体験を実施するなどの工夫改善を行えたか。 ・ニーズのあるクラブの創設に向け、生徒や教員に対するアンケートを実施し意見集約したか。</p>	<p>(1) ア・イ・ウ・エ・オ ・学校教育自己診断(生徒)における「人権教育・国際理解教育に関する肯定的意見」はそれぞれ77%、65%で目標を達成できた。(○)</p> <p>・生徒指導案件における「暴力／ネット／人間関係のトラブルに関する事案」の件数は10件であった。(○)</p> <p>(2) ア・ウ ・学校教育自己診断(生徒)における「学校生活満足度」は82%で80%以上を維持できた。(○)</p> <p>・学校行事については、様々な取組みを計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止や日程変更、規模縮小などを余儀なくされた。しかし保護者の理解や生徒のがんばり、教員の努力により実施できた行事も多かった。(○)</p> <p>イ・ウ ・新型コロナウイルス感染症により、新入生歓迎会や体験入部等の部活動をアピールする取組みができず、加入率は昨年度よりさらに低くなってしまった。次年度に取組みを強化したい。 32.4% (△)</p> <p>・新入生には合格者登校時と入学後の部活動紹介時にアンケートを実施。教員にも4月の顧問調査時に既存のクラブ以外に指導可能なクラブについてアンケートを行った。(○)</p>
<p style="text-align: center;">5 教職員の資質向上と校務の効率化を推進する</p>	<p>(1) ウェブ研修コンテンツの活用や研究授業の実施により授業力向上を図る。</p> <p>(2) OJTを中心とした研修を計画的・組織的に実施する。</p>	<p>(1)(2) ・日頃より教員間の授業見学を積極的に行い、全教員参加の全校一斉研究授業の年1回以上実施する ・教育センターの研修の他、ウェブ研修コンテンツなども活用する。 ・首席等を活用し、初任者等の経験年数の少ない教員への計画的な校内研修を実施し、資質向上を図る。</p>	<p>(1)(2) ・全校一斉研究授業を1回以上実施したか。 ・初任者等経験年数の少ない教員に対して、授業改善につながる授業分析や指導助言するため、教員ごとの個別の研究協議を行ったか。 ・研修を計画的組織的に実施できるよう、全教員に計画を示し、フィードバックを行ったか。 ・初任者等経験年数の少ない教員の生徒による授業アンケートの結果(項目3</p>	<p>(1)(2) ・11月に全校一斉研究授業を実施。(○) ・初任者への授業改善のための授業分析や指導助言などの個別の研究協議は実施できた。(△)</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、研修計画を変更せざるを得ないこともあったが、その都度計画を全教員に提示するとともに、フィードバックを行った。(○)</p> <p>・初任者等経験年数の少ない教員による授業アンケートの結果は3.28で3.0以上を維持できた。(○)</p>

	<p>(3) フォロアーシップを高め、ミドルリーダーの育成に力を入れる。</p> <p>(4) 教職員のICT活用能力を高める。</p> <p>(5) 効率的、効果的な部活動を実施する。</p>	<p>(3) 教職員間の意思疎通がスムーズかつ積極的に行われるよう、首席をはじめ、ミドルリーダーとなる教員の育成に力を入れる。</p> <p>(4)(5) ・教職員の授業におけるICT活用率を上昇させる。 ・教職員が生徒と向き合う時間をさらに確保するために、校務分掌、業務分担の見直しや業務の効率化を図る。</p>	<p>～9の平均)が4点満点中3.0以上を維持できたか。 [3.23]</p> <p>(3) ・首席等ミドルリーダーになりえる人材を育成するため、校外研修等に教員を参加させたか。 ・PT、会議などでリーダーシップを発揮できるよう、首席やミドルリーダーが司会や業務の整理に進んで取り組んだか。</p> <p>(4)(5) ・ICT機器を活用する教員の割合が90%以上を維持できたか。[96%] ・校務分掌や業務分担の見直し、業務の効率化の結果、生徒と向き合う時間の確保ができたか。 ・教員の超過勤務平均時間を30時間以下にできたか。[21.9時間]</p>	<p>・様々な研修がコロナ感染症の影響により、オンラインなどの実施形態の変更や中止となったが可能な範囲で参加してもらった。(○)</p> <p>・校内研修では首席も含めミドルリーダーにファシリテーターとして研修の進行を任せた。(○)</p> <p>・ICT機器の活用状況は93%であった。(○)</p> <p>・校務分掌や業務分担の見直しによる業務の効率化については、具体的な取組みを行うまでには至らなかった。次年度、学校の運営体制の見直しを行うので引き続き課題としたい。(△)</p> <p>・教員の超過勤務平均時間は17.9時間(○)</p>
--	---	---	---	---